

がんは身近な病気 見つかるかどうかは、 1～2年の差です

▷問い合わせ 健康づくり係 (☎223 - 3533)



がんは、日本人の2人に1人がかかると言われる身近な病気です。
しかし初期のがんは、自覚症状がほとんどありません。
症状が出たときには、手遅れになることもあります。命を守れるのは、症状が出る前の“今”です。
「もっと早く受けていれば…」と後悔しないために、年に1回のがん検診で、健康を確認しましょう。

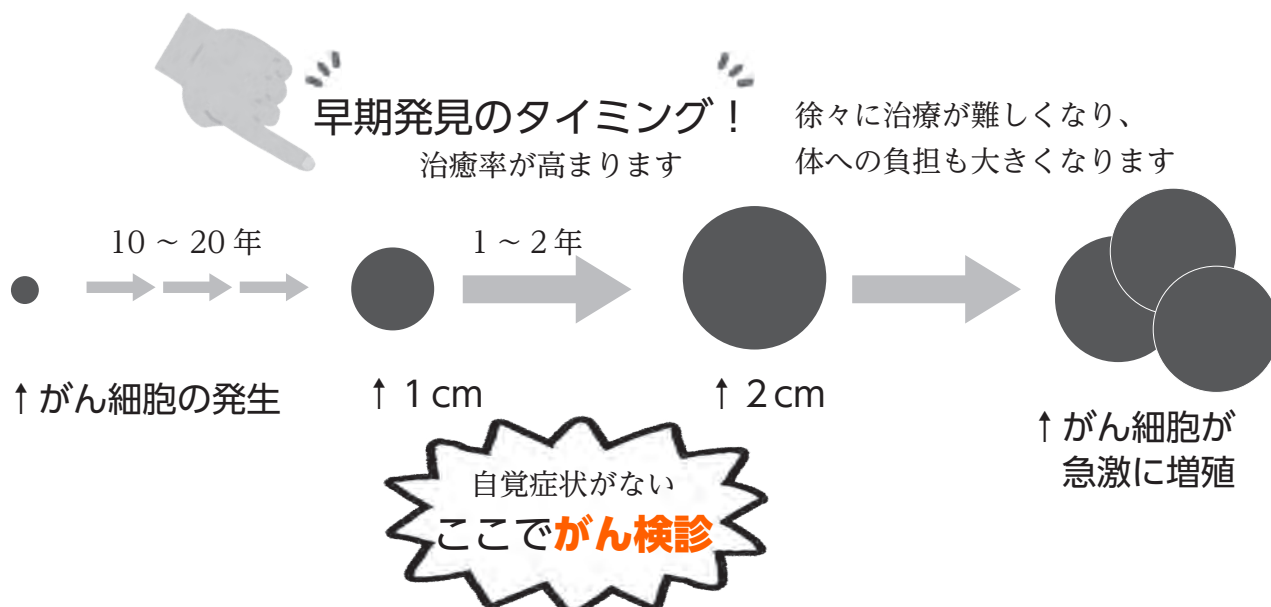
全部の検診を受けても年に1回、半日で終わります。
年に1回、**半日だけ**、自分の健康のために時間を使ってみませんか？



がんの進行イメージ

例えば乳がんの場合、1つの細胞が1センチメートルのがんになるまでは10～20年かかります。
ところが、1センチメートルのがんが2センチメートルになるのに必要な期間は、1～2年と言われています。

検診を1～2年ごとに受ける必要があるのはこのためです。



性的少数者 (LGBTQ+) への理解を
深め、偏見や差別をなくしましょう



「性はグラデーション」といわれるように、社会には、一般的に認識されている男性、女性という2つの性にあてはまらない人がいます。

社会的には少数となるそうした人たちのことを、性的少数者 (LGBTQ+) といいます。

性的指向 (どの性を好きになるか) や性自認 (自分の性をどのように認識しているか) が多数派とは異なる人たちは、性的少数者と呼ばれています。

しかし、社会の中にはまだ誤解や偏見が残っており、心ない言葉やからかい、無理解によって傷ついている人がいます。学校や職場、地域など身近な場所で、自分らしく安心して生活できない状況は、決してあってはなりません。性的少数者も私たちと同じ地域社会の一員であり、誰もが尊重され、安心して暮らせる社会づくりが大切です。

偏見や差別をなくすためには、正しい理解を深めることが大切です。性の在り方は人それぞれであり、「自分とは違う」という理由で否定したり、面白半分に話題にしたりすることは、その人の尊厳を傷つけることにつながります。また、本人の了承なく性の在り方を他人に伝えることも、重大な人権侵害となる場合があります。

私たち一人一人が、多様な性の在り方を理解し、相手の気持ちに寄り添うことが、偏見や差別のない社会につながります。「もしかしたら身近にもいるかもしれない」という意識を持ち、誰もが自分らしく生きられる地域づくりを進めていきましょう。

互いの違いを認め合い、尊重し合うことが、人権を大切にする社会への第一歩です。

全ての人が偏見や差別をなくし、安心して暮らせるまちをつくっていきましょう。

芦屋町人権・同和教育研究協議会

▷問い合わせ 社会教育係

(☎223-3546)

受けてますか?がん検診。
町の補助を活用して
お得に受けましょう♪



■こんな人こそ受診してください!

- ☒ 症状がないから受けなくていいと思う
- ☒ 健康には自信がある
- ☒ 忙しくて後回しにしている
- ☒ 「まだ大丈夫」と思っている
- ☒ 前回の検診から1年以上たっている

令和8年度 がん検診予約申込受付中!

年に1回の検診で、数万円の検査費用を抑えられます。町の助成を利用して、お得に検診を受診しましょう。

実施医療機関

◆芦屋中央病院

※詳しくは、今月号の折り込みチラシ「芦屋町からけんしんのご案内」を見てください。



予約方法

◆電話予約



☎222-2932

(受付時間: 10時~16時)



◆WEB予約

(24時間受付中)



予約フォーム